

兵庫県立病院の統合再編

～県立柏原病院と柏原赤十字病院 の統合再編事例を中心に

第9回全国知事会・地域医療研究会

(H30. 5. 28)

がんさ りゅう
兵庫県病院局企画課長 元佐 龍

公立病院の再編・ネットワーク化の必要性 (新公立病院改革プラン)

- ① 施設の新設・建替え等を行う
- ② 病床利用率が過去3年連続70%未満
- ③ 地域医療構想等を踏まえ医療機能の見直しを検討

再編・ネットワーク化に係る留意事項 (新公立病院改革プラン)

- ①二次医療圏等の単位での経営主体の統合の推進
- ②医師派遣等に係る拠点機能を有する病院整備
- ③病院機能の再編成

兵庫県立病院の統合再編等

新病院名	旧病院名	形態	開設
尼崎総合医療センター	尼崎病院	県立	H27.7
	塚口病院	県立	
丹波医療センター(仮称)	柏原病院	県立	H31 上期
	柏原赤十字病院	公的	
はりま姫路総合医療センター(仮称)	姫路循環器病センター	県立	H34
	製鉄記念広畑病院	民間	

兵庫県立病院の統合再編等

病院名	形態	開設
加古川医療センター	移転建替	H21.11
淡路医療センター	移転建替	H25. 5
こども病院	移転建替	H28. 5
神戸陽子線センター	新 設	H29.12

【検討中】

- ・県立がんセンターのあり方
- ・県立西宮病院と市立西宮中央病院の統合再編

統合再編検討課題

- ①統合再編による診療機能の充実
(医師等医療従事者の確保)
- ②新病院の建設・建替
- ③地元関係者や住民の理解
- ④廃止病院(法人)への対応
- ⑤現病院建物・用地の活用

県立柏原病院と柏原赤十字病院の 統合再編の背景



大阪・神戸から車で
約1.5時間
⇒都会に近い田舎
“とかいなか”



丹波医療圏

人口（平成29年8月）

- ・丹波市65,544人
- ・篠山市42,283人

高齢化率（平成29年）

- ・丹波市 32.4%
- ・篠山市 32.8%
- ・全国 27.7%

丹波地域は高齢者が多く、核家族化、

- ・多臓器疾患が多い。
- ・医療と保健/介護の連携が大切。

丹波医療圏は

- ・急性期病床と慢性期病床が過剰。
- ・回復期病床の不足。
- ・在宅医療の不足。

丹波医療圏の公立・公的3病院の現状

県立柏原病院(高度専門)

303床(稼働184床;
急性期164、緩和20)

+

柏原赤十字病院(地域医療)

99床(急性期72、地域23、感染4)

⇒H30年度から59へ減床



福知山市民病院(354床)

丹波市
(6.6万人)

篠山市
(4.2万人)

西脇市民病院(320床)

兵庫医大

ささやま医療センター

180床

(急性期136、療養44)

私立病院

丹波市

・大塚病院(一般60床、療養325床)

・香良病院(精神266床)

篠山市

・岡本病院(一般94床、療養92床)

・にしき記念病院(一般48床)

・山鳥病院(療養31床)

県立柏原病院の概要



開設:昭和28年

診療科:18診療科(内科・呼吸器科・消化器科・循環器科・小児科・外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・産婦人科・耳鼻咽喉科・眼科・皮膚科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科・歯科・救急科)

病床数:303床(許可) **稼働病床数:**184床(急性期164床、緩和20床)

外来患者数:●338.9人/日 **入院患者数:**●166.4人/日

平均病床利用率:78.6%(2014年度)→85.6%(2015年度)→90.5%(2016年度)

平均在院日数:12.8日

一般病棟入院基本料:7対1入院基本料

勤務体制:2交替制と3交替制の選択制

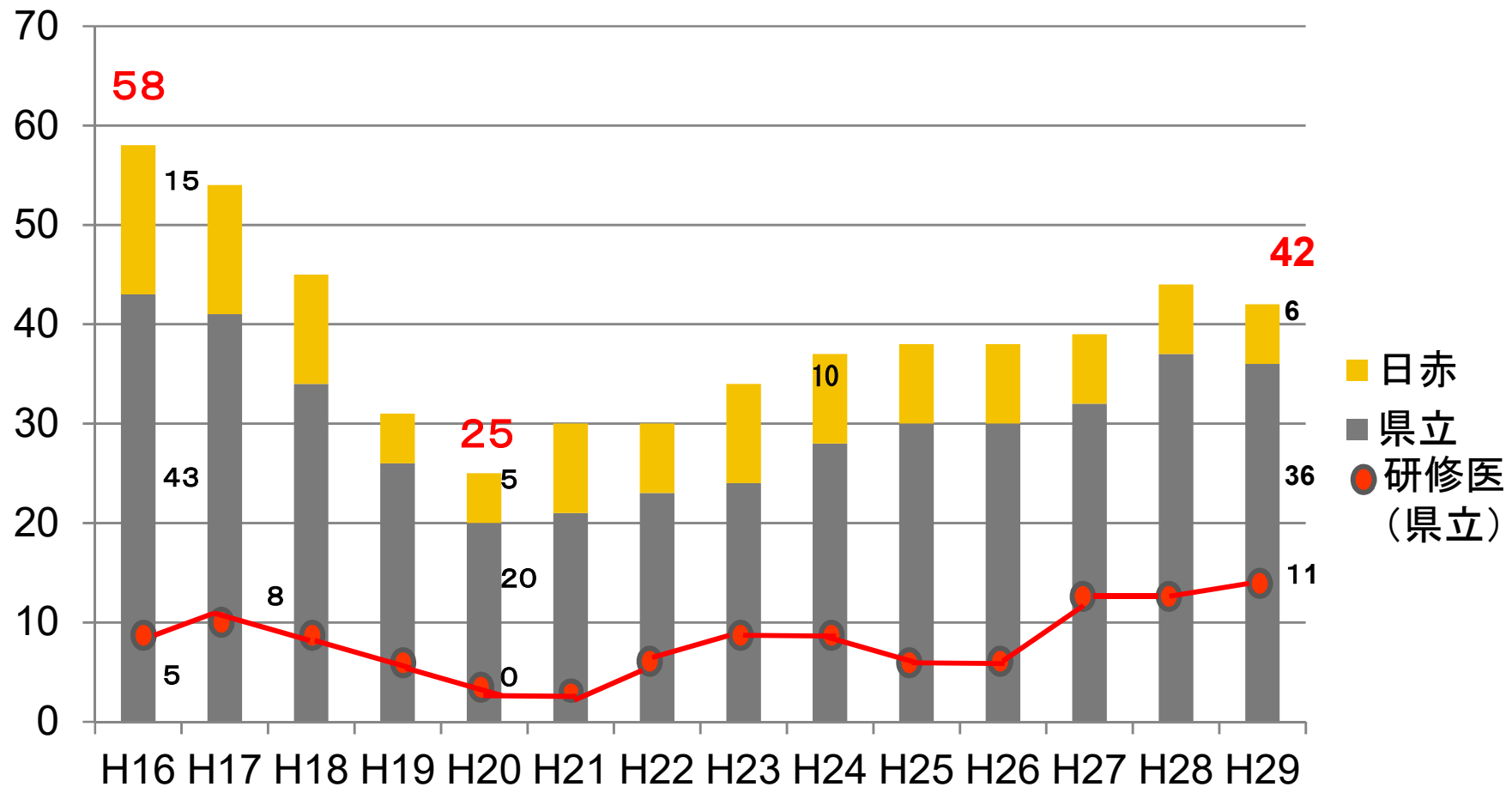
看護提供方式:PNS

看護補助体制加算:25対1

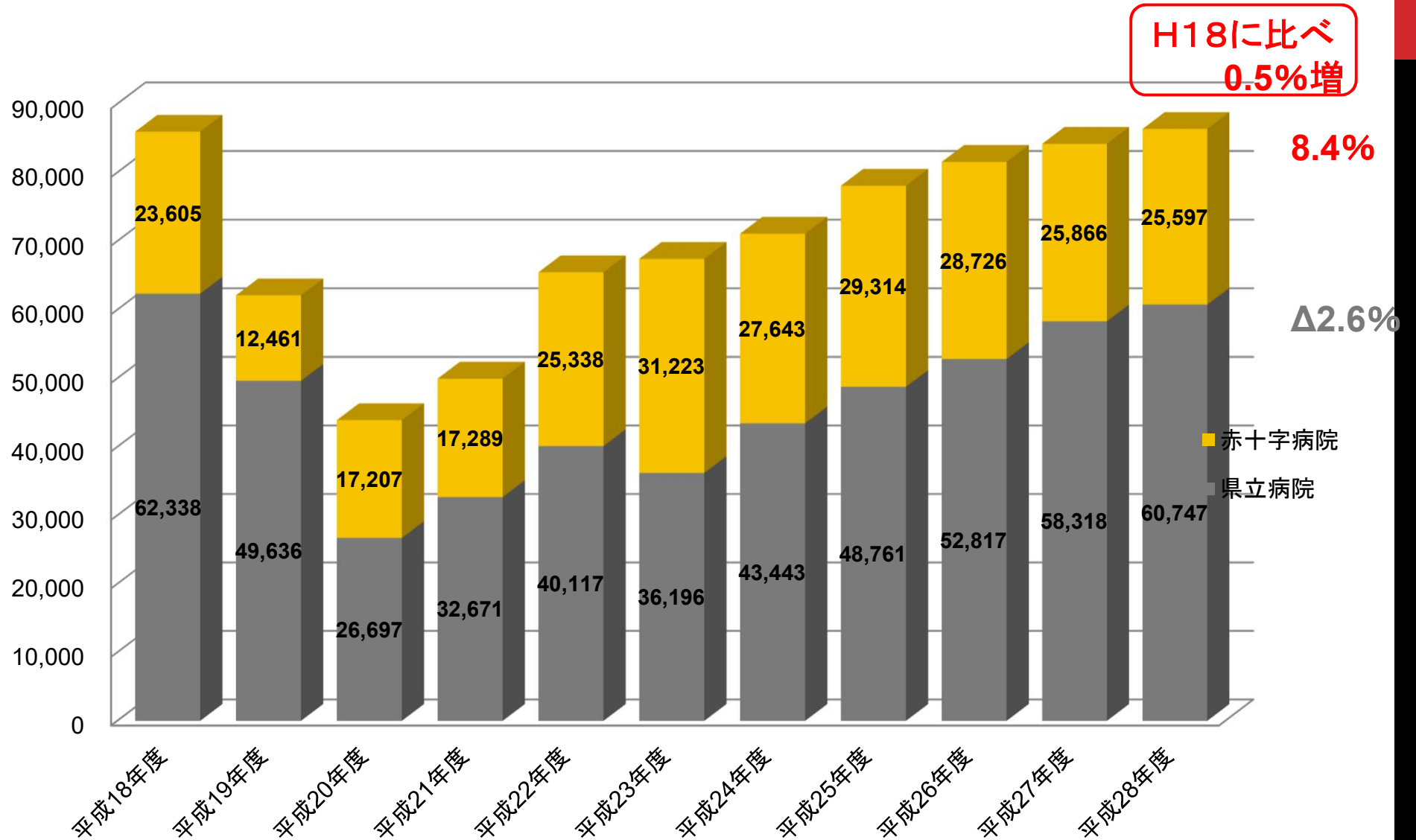
※がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、臨床研修指定病院、DPC

地域の中核病院
として位置付け

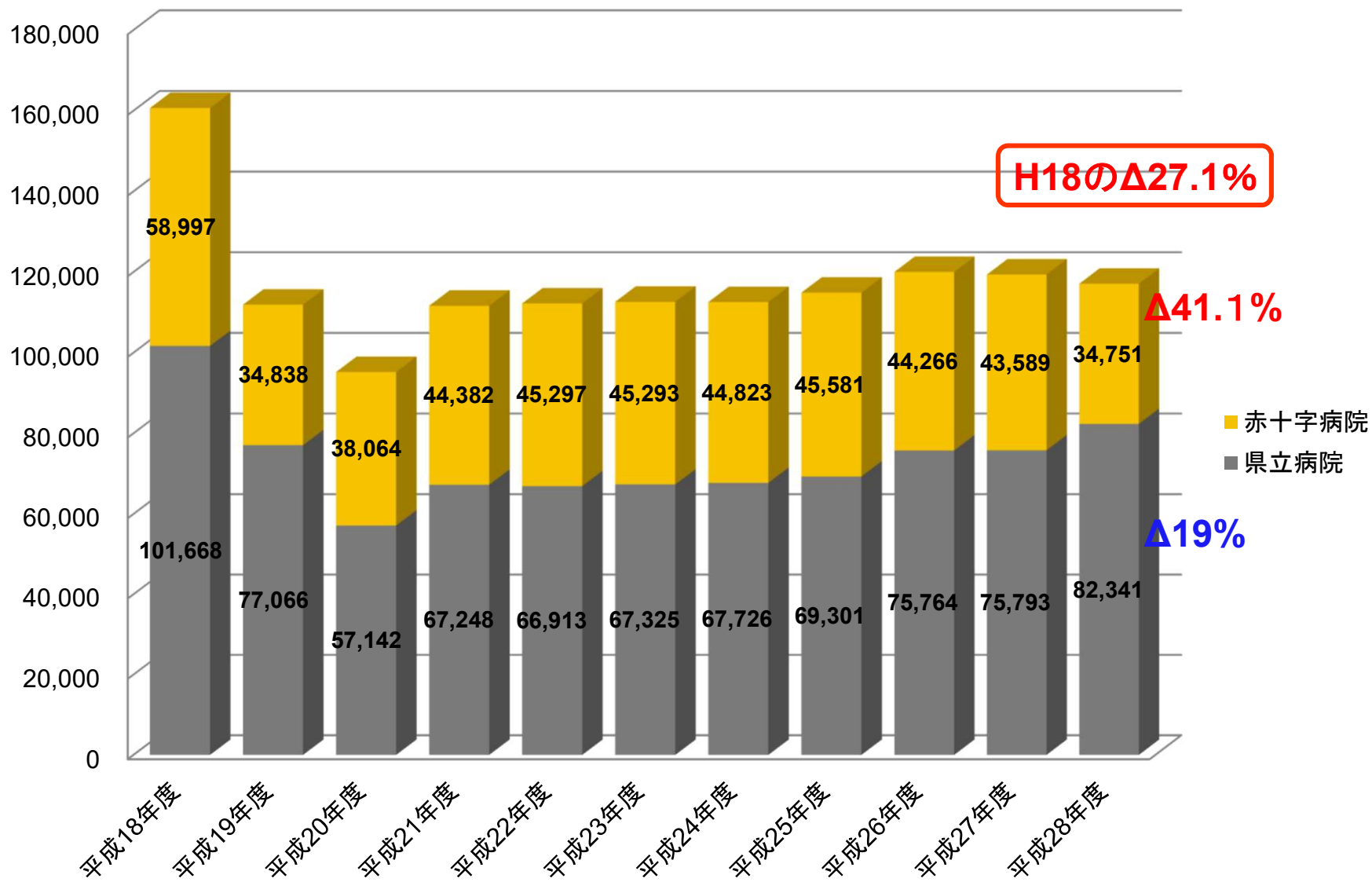
両病院の常勤医と研修医数の推移



両病院の延入院患者数の推移



両病院の外来患者数の推移



県立柏原病院と柏原赤十字病院の 統合再編

①統合再編による診療機能の充実

1. 急性期から回復期までの幅広い医療の提供

県立と日赤の診療機能の維持・充実

2. 保健・福祉と連携した地域包括ケアの中核

丹波市地域医療総合支援センター（総合外来、健診、訪問診療など）と新病院のハイブリッド施設の形成

3. 二次、三次救急拠点

循環器、消化器、脳、外傷などに対して

4. 地域医療にかかる人材の育成（教育拠点化）

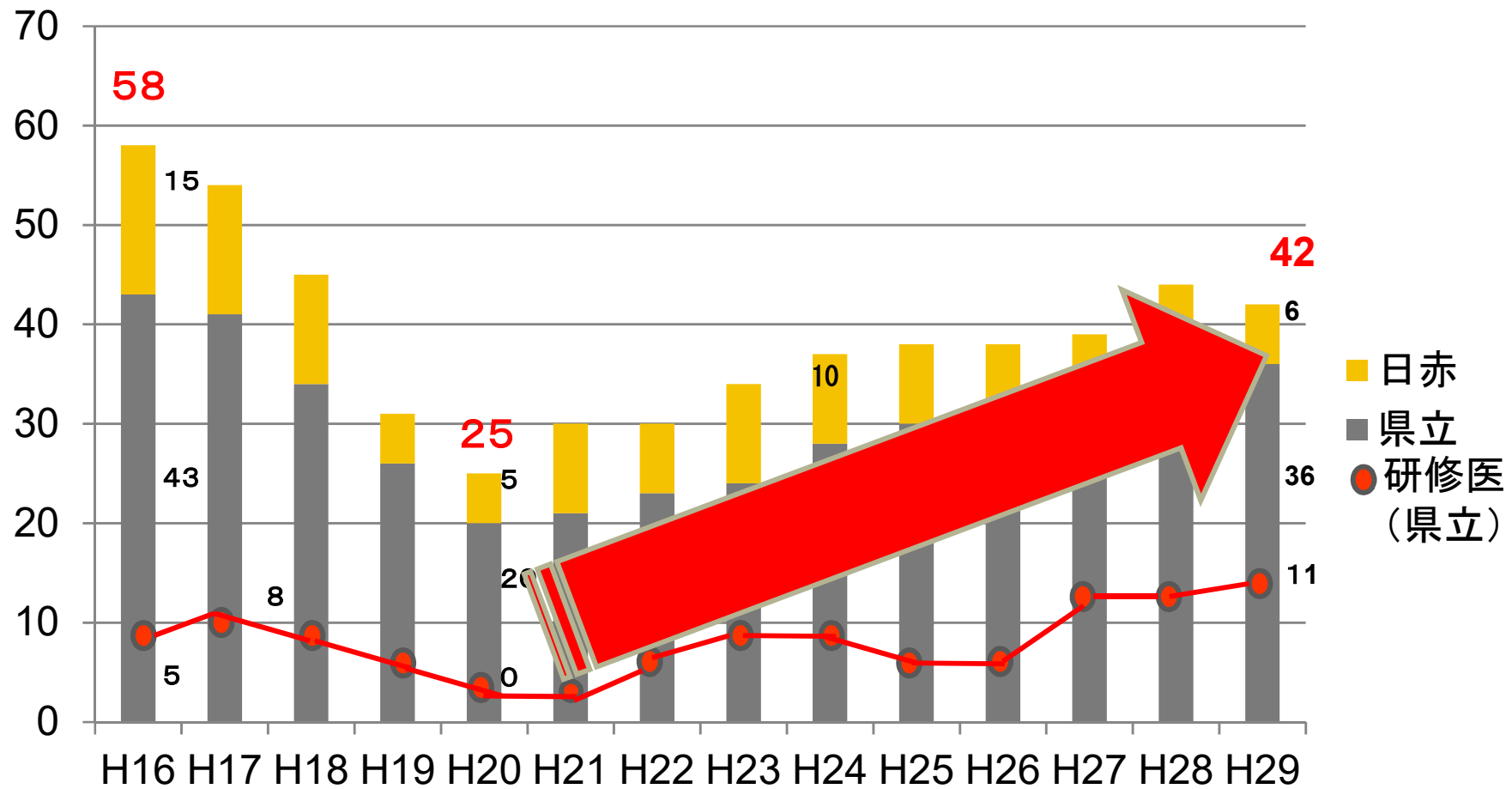
研修医教育

県養成医のハブ機能

総合診療医、総合内科医、臓器別専門医育成

医学生/看護学生教育への積極的参画

①統合再編による医師確保



①統合再編による医師確保



柏原病院/
地域医療教育センター
(H26/9/1設置)



研修医との院長カンファ H27年

研修医との院長カンファ
H25年

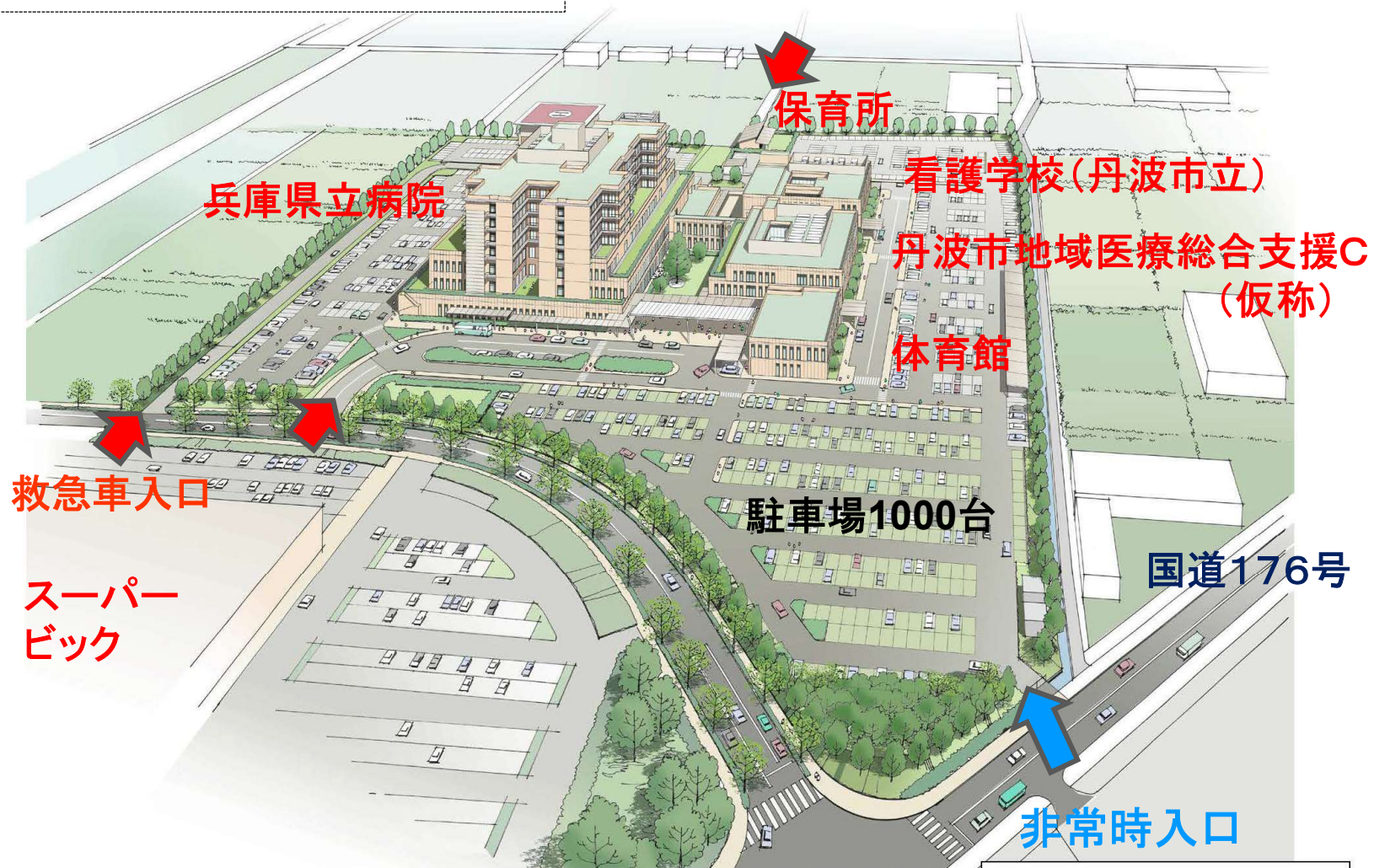
研修医	県養成医
H25; 2名	1名
H26 ; 2名	2名
H27; 10名	4名
H28; 10名	6名
H29; 11名	5名

H28年度

県尼(3)、西宮(1)、加古川(6)、
神大(14)からの研修医と混ざる



②新病院の建設



西側からの鳥観イメージ図

③地元関係者や住民の理解

○県立柏原病院の小児科を守る会

□丹波市域の今後の医療提供体制のあり方に関する検討会(統合再編)

□県立柏原病院と柏原赤十字病院の統合再編検討懇話会(新病院の機能・整備地)

③地元関係者や住民の理解

- 病院統合再編を考える市民フォーラム～
新病院のここが知りたい！～【丹波市】
- 院長と研修医等による自治会向け医療・
健康講座(毎月)

④廃止病院(法人)への対応

- ・柏原赤十字病院の医療機能を継承
(→新病院＋丹波市関連施設)
- ・職員を選考のうえ県職員として採用

⑤現病院建物・用地の活用

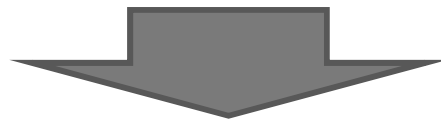
- ・既存施設の利用の可否も含めた有効な利活用方策を検討

県立姫路循環器病センターと
製鉄記念広畑病院の統合再編での
地域医療連携推進法人制度の活用

	姫路循環器病センター	製鐵記念広畑病院
病床数	一般 350床	一般 392床
診療科目	内科、循内、神内、糖尿内泌、外科、 心外、脳外、形成、眼科、リハ、放射、 麻酔、病理、救急 15科	内科、循内、消内、糖尿、腎内、神内、 緩和、小児、外科、消外、乳腺、血外、 頸外、肛門、脳外、整形、リウマチ、リハ、 皮膚、形成、泌尿、産婦、眼科、耳鼻、 放射、麻酔、病理、救急 28科
医師数	68名(後期研修医10名含む)	67名(後期研修医6名含む)
特色	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器専門病院 ・救命救急センター ・糖尿病センター ・協力型臨床研修指定病院 ・神戸大学との連携大学院 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会医療法人 ・救命救急センター(民間唯一) ・ドクヘリ準基地病院 ・内視鏡センター ・基幹型臨床研修指定病院 ・県指定がん診療拠点病院
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・築36年経過し老朽化 ・専門科以外の合併症対応が困難 ・医師確保が困難 ・救急専門医は不在 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型病院だが診療科に厚みがない ・特に循環器疾患への対応が困難 ・医師確保が非常に困難 ・救急専門医が激減

両病院の統合再編までの病院間連携

- ・異なる組織（県立・民間）
- ・両病院間の人事交流、定期的な合同カンファレンスなどにより、統合再編に向けた環境を醸成が必要



平成29年4月から施行される地域医療連携推進法人制度を活用

地域医療連携推進法人制度について（概要）

厚生労働省HPより

- ・医療機関相互間の機能分担及び業務の連携を推進し、地域医療構想を達成するための一つの選択肢としての、新たな法人の認定制度
- ・複数の医療機関等が法人に参画することにより、競争よりも協調を進め、地域において質が高く効率的な医療提供体制を確保

地域医療連携推進法人



認定・監督

都道府県知事

- 医療連携推進区域（原則地域医療構想区域内）を定め、区域内の病院等の連携推進の方針（医療連携推進方針）を決定
- 医療連携推進業務等の実施
 診療科（病床）再編（病床特例の適用）、医師等の共同研修、医薬品等の共同購入、参加法人への資金貸付（基金造成を含む）、連携法人が議決権の全てを保有する関連事業者への出資等
- 参加法人の統括（参加法人の予算・事業計画等へ意見を述べる）

参画(社員)

参画(社員)

参画(社員)

参画(社員)

参加法人
 (非営利で病院等の運営又は地域包括ケアに関する事業を行う法人)

(例)医療法人A

病院

(例)公益法人B

診療所

(例)NPO法人C

介護事業所

- ・区域内の個人開業医
- ・区域内の医療従事者養成機関
- ・関係自治体 等

はりま姫路総合医療センター 整備推進機構の概要



1 趣旨

県立姫路循環器病センターと製鐵記念広畑病院（以下「両病院」という。）の統合再編にあたり両病院相互間の機能の分担及び業務の連携を推進するため法人を設立する。

2 法人の概要

- (1) 場 所 ①主たる事務所 兵庫県病院局内 ②従たる事務所 両病院内
- (2) 目 的 両病院の統合再編までの間、両病院相互間の機能の分担及び業務の連携を推進し、統合再編を円滑に行い、中播磨・西播磨圏域において質の高い効率的な医療提供体制を確保することを目的とする（統合後は解散）。
- (3) 事 業 ①診療連携・患者紹介、②人材交流、③人材教育
④その他地域医療連携推進に関する事業
- (4) 認定日 平成29年4月3日（同2月17日一般社団法人設立）
- (5) 役員等 理事長：木下芳一（島根大学医学部附属病院副院長）、理事(5)、監事(1)
- (6) 評議会の設置 評議員8名（医師会2、住民代表、地元市、関連大学、有識者3）

地域医療連携推進法人 設立後の動き



H29.2.17 一般社団法人 はりま姫路総合医療センター
—整備推進機構 設立

H29.4.3 地域医療連携推進法人の認定

【主な事業】

- (1) 地域医療連携推進懇話会の開催
- (2) オープンカンファレンスの開催支援
- (3) 救急医療にかかる消防機関との意見交換
- (4) ホームページの開設
- (5) 機関誌の発行

○ 標章(ロゴマークの策定)

両病院職員の投票により、標章(ロゴマーク)を策定。

【コンセプト】

人と地域の「和」をモチーフに2つの組織が調和する姿、前進していく姿を、

- ① はりま姫路総合医療センター整備推進機構、
- ② 広畑病院、
- ③ 姫路循環器病センター

の頭文字である「H」で表現。

赤が動脈、青が静脈を表現し新たな未来・誕生・芽吹き(緑)を連想。



地域医療連携推進法人
はりま姫路総合医療センター
整備推進機構



地域医療連携推進法人
はりま姫路総合医療センター整備推進機構

○ 機関誌の発行



地域医療連携推進法人
はりま姫路総合医療センター
整備推進機構

地域医療連携推進法人

はりま姫路総合医療センター 整備推進機構 だより

2017
Vol.1
2017年10月
発行

中播磨・西播磨圏域における 安定的・継続的・効率的な質の高い医療提供体制確立のために

理事長就任あいさつ

理事長 木下 幸一

この際、地域医療連携推進法人 はりま姫路総合医療センター整備推進機構の理事長を拝命いたしました。国立姫路循環器病センターと製鉄記念広畑病院の統合というビッグプロジェクトに参加する機会を与えていただき、身の引き締まる思いです。

国立姫路循環器病センターは昭和54年に日本初の循環器専門の総合病院として開設され、心臓血管疾患・脳血管疾患を二本柱として医療を提供するとともに、救急救急センター、皮膚科皮膚科病棟及び腎臓病医療センターの創設を受け、西播磨圏域を行って来ました。また、製鉄記念広畑病院は昭和15年に日本製鉄株式会社製鉄部附属病院として開設され、医療法人化を経て、平成23年に社会医療法人として独立を遂げ、その後、脳神経外科センター、がん検診センター、呼吸器科病棟となるなど、地域医療に貢献して参りました。

このように、それぞれに誇りを持ち、立派な医療を提供する両病院が、取組の成果を期待するために、多くの時間をかけて連携し、統合再編の一歩を踏み出すに至った経緯を伺うと、これらひとえに両院の歴史が関係者の熱意とご協力の結果と感ずっております。

この統合再編のビッグプロジェクトは、スタートラインに立ったばかりです。歴史、文化、組織が異なる両病院を統合・再編し、新病院を開業するまでは、これから検討しなくてはならない課題がたくさんあるものも実です。しかし、両病院の強みの中にも、両病院の特色があり、その特色を維持・発展させることが、新病院をよりよいものにするにつながるのではないでしょうか。

これから、両病院の強みや特徴を最大限に活かすため、新病院がよりよい病院となるよう、機力ながら積極に推進し、その使命を果たすべく努力していく所存です。

今後とも、ご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

プロフィール

学 歴	京都大学医学部附属病院病院長（杏林製薬） 内科学科長兼第二（消化器・肝臓・泌尿器科）教授
所属学会・医会・資格	日本内科学会副会長、日本消化器病学会副会長、日本消化器内科学会副会長、 日本結核学会副会長、日本消化器病学会副会長、 日本腎臓病学会副会長、日本消化器病学会副会長、 日本腎臓病学会副会長、日本消化器病学会副会長

【地域医療連携推進法人 はりま姫路総合医療センター整備推進機構】

設立の趣旨：公益事業（医療提供）の促進
 代表の事務所：地域医療連携推進法人（国立広畑循環器病センター）製鉄記念広畑病院
 〒262-0292 兵庫県姫路市東山町1-1-1
 TEL 079-221-1111 FAX 079-221-1112

https://www.prelhyogo.lg.jp/bk01/harimahmejlg_houjin.html

地域医療連携推進法人 2017年度第1回定例会議資料（第2号）

2017年10月25日

平成29年2月、国立姫路循環器病センターと製鉄記念広畑病院の 統合再編基本計画が策定されました。

国立広畑循環器病センター及び製鉄記念広畑病院はともに救急医療センターを有し、中播磨・西播磨圏域における重要な医療機関としての役割を果たしてきました。

しかしながら、この両病院が互に特色ある医療を提供し、近年の少子高齢化のさらなる進展による疾病構造の安全や医療ニーズの多様化等によって機能分担や連携等の方向に転化しており、さらに両者の地域性・医療科領域への対応が求められる等、新たな発展に意欲しています。

このような契機に対し、中播磨・西播磨圏域において双

面的・継続的に両院の医療を提供すると、両病院の統合再編に向けた基本的な考え方や医療連携を実現するための取り組みが基本計画として策定されました。基本計画の概要につきましては下記URL、QRコードにてご覧ください。

基本計画の概要は、下記URLからご覧いただけます。

http://www.prelhyogo.lg.jp/green/documen/20170317_017646-003570236001530448662000_1.jp

両病院における連携の取り組み①-循環器内科

国立広畑循環器病センターは、循環器の専門病院として高レベルの診療を提供する役割を担っており、製鉄記念広畑病院は、多くの診療科を擁する総合的な病院として循環器科の診療を担う役割を担っています。中播磨・西播磨圏域では今後高齢化に伴う循環器疾患の患者の増加が予測されており、圏域の医療ネットワークの中で安定的・継続的に良質な医療の提供を図るためには、それぞれの医療機関が有

する機能を補完し合う必要がります。

本年4月より製鉄記念広畑病院では、総合循環器病センターの設置に伴って循環器科の診療体制を整え、循環器科だけでなく救急の診療も担当する体制とし、製鉄記念広畑病院の診療体制を向上させ、圏域の中で安心して診療を受けていただける医療連携ネットワークの構築を行おうとしています。

姫路循環器病センター

製鉄記念広畑病院

**地域医療連携推進法人
はりま姫路総合医療センター整備推進機構**

〒262-0292 兵庫県姫路市東山町1-1-1

中播磨西播磨圏域

両病院での連携や情報の交換を促して両院間の連携の共有を促進、両院間と両院連携等との連携強化を図ります。

- 地域医療連携推進委員会事務局
- オープンカンファレンス開催実施
- ホームページ掲載 ○書籍発行
- 関係機関との意見交換・学業情報交流等、など

○ 地域医療連携懇談会の開催



機構の医療連携推進区域(中播磨・西播磨圏域)内の医療関係者との情報交換の場として、地域医療連携懇談会を両病院と合同で開催し、はりま姫路総合医療センター整備の基本計画を説明。



○ 各部門での意見交換会の実施



両病院各診療科担当者が参加するワーキング(WG)を、
2017年8月～2018年3月の間で2回/月程度実施

【検討事項】

(1) 設計関連

設計に関する検討事項(必要諸室・諸室設備・配置関係、WG内ヒアリング対応等)

(2) 運用・委託関連

運用条件に関する検討事項(機能・規模・人員体制、委託範囲・内容等)

(3) 医療機器・医療情報システム関連

新規・更新機器、システム要望確認(WG内ヒアリング対応)

<WG一覧>

- 1 外来部門WG 2 病棟部門WG 3 手術部門WG 4 救急部門WG 5 集中治療部門WG
6 周産期部門WG 7 薬剤部門WG 8 臨床検査部門WG 9 診療放射線部門WG
10 内視鏡部門WG 11 超音波部門WG 12 リハビリテーション部門WG 13 血液浄化部門WG
14 中央材料部門WG 15 栄養給食部門WG 16 臨床工学部門WG 17 患者支援部門WG
18 教育・研修、研究部門WG 19 医療情報部門WG 20 医療事務部門WG 21 管理部門WG
22 医療機器導入検討WG 23 供給・搬送管理部門WG 24 移転検討WG(H32年頃から開始)

地域医療連携推進法人設立の効果

- 統合に向けた「気持ちのつながり」
 気運の高まり(一体感までは今一步)
 いずれは同じ釜の飯を・・・
- リーダーが明確に
- 両病院間の意見交換が非常にスムーズ
- 医師派遣にかかる大学の理解
- 人事交流、共同研究、、、 など